海外活動　国際歯科見本市（IDS）　ドイツ

100年以上の歴史を持つ国際歯科見本市（IDS）は、2年に1度ドイツのケルンメッセで開催される世界最大級のデンタルショーで、歯科業界の“未来が見える場所”として知られています。世界中の最新技術やアイデアが集まり、歯科医療のこれからをつくるヒントがあふれる場です。私たちの仕事に直結する新しい発見が生まれる、まさに業界の中心地！

IDSの場で取引先と活発に意見交換を行い、その中から“これは日本に届けたい”と思える製品を厳選して導入しています。まだIDSに行かれたことがない先生は、ぜひ一度足を運んでみてください。世界の勢いを肌で感じられる、ワクワクする場です‼





IDS展示会場にて
左）弊社 国内品質業務運営責任者 石岡
中央）COLTENE社 アジア担当役員
右）弊社 社長 佐野

セミナー紹介　セミナー講師のご紹介

弊社主催の年次セミナーにて高い専門性と知見を提供してくださる講師の先生方をご紹介いたします。



中川 寛一先生
（歯科医師・歯学博士）
Pacific Endodontic Research Foundation JAPAN 主宰
日本顕微鏡歯科学会認定指導医（第1号）



井上 孝先生
（歯科医師・歯学博士）
東京歯科大学 名誉教授
東京歯科大学 臨床検査病理学講座 前主任教授
全国歯科衛生士教育協議会関東甲信越地区・会長



渡辺 泰平先生
（歯科医師・歯学博士）
千葉県木更津市 陽光台ファミリー歯科クリニック
PERF-JAPAN認定講師



清水 直美先生
（歯科衛生士）
MicroPex Hygienic Laboratory 主宰
日本顕微鏡歯科学会認定衛生士



松田 敦至先生
（歯科医師）
埼玉県行田市 坂詰歯科・矯正歯科
日本顕微鏡歯科学会認定医
COLTENE社 公認インストラクター



笠原 明人先生
（歯科医師・歯学博士）
東京都江戸川区 笠原デンタルオフィス
日本顕微鏡歯科学会認定指導医



所 篤司先生
（歯科医師）
大阪府大阪市阿倍野区 ところデンタルクリニック
COLTENE社 公認インストラクター



川西 雄三先生
（歯科医師）
岡山県倉敷市 川西歯科医院
日本歯科保存学会 歯科保存上級医
日本歯内療法学会 歯内療法専門医

各セミナーの詳細は
弊社ホームページで
ご確認ください。

製品の詳細は
弊社ホームページで
ご確認ください。

【発行】とうしか編集チーム　FOUNDED in 1949 東京歯科産業株式会社

東京歯科産業株式会社
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-10-5　TEL:03-3831-0176　FAX:03-3835-8254
E-mail：info@tokyodental.co.jp　https://www.tokyodental.co.jp
■大 阪 支 店　■九 州 支 店

TODENT 東京歯科産業だより

とうしか

2026 Vol.01

創刊を迎えて



東京歯科産業株式会社　代表取締役社長
佐野 雄亮

日頃より格別のご愛顧を賜り、心より御礼申し上げます。弊社は「選りすぐりの歯科用製品を世界から」の企業理念の下、高付加価値の製品ならびに情報をユーザーの皆様方にお届けすることを目標にこれまで活動してまいりました。

古くはデンツプライインターナショナルやシーメンス（現デンツプライシロナ）、VITAやデグザ等の国内代理店として、現在はコルテンウェルデントやデンタータス、ブッシュ、メクトロン等、国内外のパートナー企業の製品ならびに臨床情報をユーザーの皆様へお届けしております。

創業から70年を超え、AIやデジタル技術の進展等、時代は変遷しつつありますが、以前の弊社をご存知の先生方にも、新しく弊社を知っていただいた先生方にも、これまで以上に皆様に弊社の活動をより身近に感じていただきたく、今般「とうしか」を発刊させていただく運びとなりました。日々の臨床や業務に役立つ確かな製品情報とともに、皆様の声を反映した情報発信に努めてまいります。今後とも弊社ならびに「とうしか」に対しまして変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



「とうしか」がお届けするのは、高付加価値製品の良さや魅力だけではありません。その価値を正しく理解していただくために、メリットだけではなく、使い方によってはデメリットになり得る側面まで、正直な情報をお届けいたします。さらに、国内外の取引先のご紹介をはじめ、海外での活動や現地のリアルなトピックス等現場から生まれる「今」を発信してまいります。「とうしか」は、ユーザーの皆様方の「知りたい」に応え、現場のニーズに寄り添い、日々の臨床に貢献できる情報をお届けしてまいります。

とうしか編集チーム一同

TODENT
CLINICAL REPORT

安心・安全な根管治療のために

HyFlexとの出会いから、治療に向き合うための考え方



埼玉県行田市 坂詰歯科・矯正歯科
日本顕微鏡歯科学会認定医

松田 敦至 先生

2007年　明海大学歯学部卒業
2008年　明海大学病院歯周病科勤務
2013年　埼玉県行田市坂詰歯科医院 継承
2018年　PERF-JAPAN 講師就任　NiTiファイル HyFlex インストラクター
2019年　ドイツCOLTENE社公認インストラクター就任
2020年　日本顕微鏡歯科学会認定医
2022年　銀座並木通り歯科非常勤勤務（歯内療法専門）

HyFlexを知ったきっかけを教えてください。

HyFlexとの出会いは、2016年の横浜デンタルショーだったと思います。会場を歩いていて、たまたま東京歯科産業さんのブースに立ち寄り、そこでHyFlexのチラシを手に取ったのがきっかけでした。当時は「曲がる」という特徴を持つファイルが今ほど一般的ではなく、「これは何だろう？」と興味を持ったことを覚えています。その後、日本歯科大学北村教授のセミナーが東京歯科産業さんで開催されると知り、参加したことで、さらにHyFlexへの関心が深まりました。その後、社員向けの勉強会にも参加し、翌年からは講師のお話もいただくようになりました。振り返ると、最初にチラシを手に取ったことから、さまざまなご縁がつながり、現在に至っています。

先生にとって「安心・安全な根管治療」とは、どのような治療でしょうか？

一言で言えば、事前に治療を予測し、計画通りに進められることだと思います。例えばCTから状態を把握し、治療計画を立てておく。もちろん、実際の治療ではレッジや穿通障害、閉鎖、術後の痛みや腫れなど、予期せぬことが起こる場合もあります。その際は無理に進めず、治療を止めたり延期したりする判断も必要です。「何が起きても対応する」のではなく、まずイレギュラーを起こさないよう準備し、起きた場合にも対応できるようにしておく。それが安心・安全な治療につながるのではないでしょうか。

安心・安全な根管治療を行うためには、どのような準備や環境が必要でしょうか？

まず大切なのは、知識と経験です。CTやマイクロスコープ、柔軟性のあるファイルなどの設備・器材も重要ですが、それらを揃えるだけでは十分ではありません。知識と経験を身につけたうえで、必要な機材を適切に使うことが大切です。知識はセミナーや読書を通して学び、経験は実際の治療を重ねることで身につきます。もう一つ大切なのが、治療時間に余裕を持つことです。根管治療では「治療時間を減らす努力」が重要だと考えています。例えば、NiTiファイルを使えば手用ファイルより形成時間を短縮でき、時間に余裕が生まれます。その結果、急なトラブルにも落ち着いて対応できるため、治療時間の短縮は大きなメリットだと思います。

NiTiファイルを選ぶうえで、重要なポイントは何でしょうか？

単純に「このファイルの性能が一番重要」ということではないと思います。安心・安全な根管治療には、知識や経験、設備、器材、治療時間などを総合的に整えることが重要です。
特に根管治療では予期せぬことも起こるため、「このファイルしか使わない」のではなく、症例や状況に応じて選択できる環境を整えておくことが大切です。HyFlexも、すべての症例で使うのではなく、必要な場面で選択できることに意味があると思います。また、治療時間の短縮も重要です。根管形成の時間を短縮できれば、術者だけでなく患者さんの負担も軽減できます。「成功率が上がる」と単純には言えませんが、効率よく治療を終えることは、患者さんにとって大きなメリットだと思います。

最後に、今後の東京歯科産業に期待することを教えてください。

最近、海外の展示会を訪れる機会があり、欧米だけでなく中国や韓国など、アジア企業からも興味深い製品が数多く出展されていることを実感しました。一見、用途が分からないような製品でも、実際に臨床で活用されているものもあります。こうした世界各国の新しい製品や技術に目を向け、日本の先生方の治療の質を高める材料・機材を積極的に紹介してもらえたら嬉しいですね。

MATSUDA ATSUSHI

HyFlexとともに歩んだ10年

幅広い症例に対応するために、私が今も使い続ける理由



はじめに
私がマイクロスコープとNiTiファイルを本格的に臨床へ導入してから、約10年が経とうとしている。この10年間、狭窄根管や強度湾曲根管、MB2、レッジを形成した再根管治療など、さまざまな難症例に向き合ってきた。もちろん、うまくいかなかった経験もある。その一つひとつから学び、試行錯誤を重ねる中で、10年前と比べて自身の歯内療法は大きく変化したと感じている。その10年間を語るうえで欠かせないNiTiファイルがHyFlexである。約10年前から使用を続け、現在も日々の根管治療で活用している。なぜ私はこれほど長くHyFlexを使い続けているのか。今回は、約10年間使用してきた一臨床家の立場から、その理由を紹介したい。

私がHyFlexを使い続ける3つの理由

第一の理由は、しなやかさと根管への追従性である。HyFlexはマルテンサイト相の特性を活かした柔軟性を有し、強く湾曲した根管や開口量が少ない症例、レッジを伴う再根管治療などで大きなメリットを感じている。特に、ファイルにプレカーブを付与できる点は、レッジ症例や根尖部の強い湾曲において治療を進めるうえで有用である。HyFlexを使えば難症例が解決するということではなく、根管形態に合わせた使い方を考えることで、自身の治療技術も向上してきたと感じている。
第二の理由は、破折に対する安心感である。NiTiファイルの破折リスクをゼロにすることはできないが、約10年間使用してきた臨床的な印象として、HyFlexは湾曲根管でも破折しにくく、難症例でも安心して使用できる。複雑な根管では、切削効率だけでなく、安全に根尖までアプローチできることが重要であり、その点でもHyFlexの柔軟性は大きな利点だと感じている。
第三の理由は、適切な管理のもとで再使用できるマルチプルユースのシステムであることだ。使用後に形状変化があっても、オートクレーブ滅菌後に形状が回復していれば、メーカーの指示する範囲内で再使用できる。一方、形状が回復しないものや、刃部の損傷・刃こぼれが認められるものは使用せず破棄している。安全性を最優先に、ファイルの状態を一本ずつ確認することが重要だと考えている。
EDMを軸に、CMで補完する。HyFlexには「HyFlex CM」と「HyFlex EDM」があり、CMは柔軟性と根管追従性、EDMは柔軟性と切削効率のバランスに優れている。私の臨床では、HyFlex EDMを基本とし、EDMだけでは対応しにくい部分をHyFlex CMで補完するという使い分けをしている。
約10年間HyFlexを使用してきた私が一言で表現するなら、「幅広い症例に対して、より安心・安全・効率的に治療するためのNiTiファイル」である。

症例紹介　咬合痛

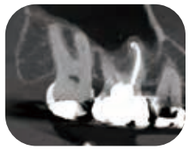
50歳代・女性　上顎右側第一大臼歯
主訴：咬合痛
診断：根尖性歯周炎、歯性上顎洞炎
治療：Initial Treatment（初回根管治療）


術前デンタルX線写真


術前CBCT画像
上顎洞底の穿孔を認める


術前CBCT画像
根尖まで独立したMB2が確認できる


術後2年経過


術後2年経過

治療動画QRコード

本症例では、独立したMB2が確認された。MB1、MB2ともに湾曲が強く、狭窄した根管形態を呈していた。近心根管では、まず上部拡大（プレフレア）を行った。私の場合、いきなりオリフィスオープナーを使用するのではなく、HyFlex EDM #20/.05、続いてHyFlex EDM #25/.08を根管の半分程度まで使用し、その後HyFlex CM Orifice Openerを使用することが多い。これは単なる上部拡大だけを目的としているのではない。
最初にHyFlex EDMを使用することで、根管の方向や形態を確認する、いわば「スカウティング」としての意味を持たせている。
その後、ステンレスファイルを用いて穿通を行い、作業長を設定した。本症例では、再度HyFlex EDM #20/.05、#25/.08を使用して作業長まで根管形成を行った。その後の経過観察において根尖部透過像の消失を確認し、最終補綴へ移行した。

おわりに
私がHyFlexを使い始めて、約10年が経過した。振り返れば、「HyFlexとともに歩んできた10年間」だったように思う。初心者の頃から現在まで、湾曲根管、狭窄根管、レッジ症例など、さまざまな根管形態に向き合うなかで、HyFlexには幾度となく助けられてきた。HyFlexは、これからNiTiファイルを始める先生から、日常的に難症例へ取り組む先生まで、幅広く使用できるシステムだと考えている。現在は多くの優れたNiTiファイルが発売され、それぞれに特徴がある。もし今使用しているNiTiファイルだけでは対応に悩む症例があれば、選択肢の一つとしてHyFlexを手に取っていただきたい。道具が歯科医師を上手くするわけではない。しかし、優れた道具との出会いが、歯科医師の成長につながることはある。私にとってHyFlexは、まさにそのようなNiTiファイルである。